

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300738		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームわたしの家 (1階、2階)		
所在地	静岡県富士市大淵352-2		
自己評価作成日	平成25年1月28日	評価結果市町村受理日	平成25年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouyuu_detail_2012_022_kami=true&jiyosvoCd=2272300738-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成25年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆったり」「のんびり」「自分らしさ」を念頭に日々そのひとらしさを大切にしながら支援させて頂いています。また、介護基礎研修に参加しそのひとができることを継続できるように学び合いながら。職員が情報の共有や意見を言える環境を整えております。職員が目標を作成し達成できるように全員で協力しあっています。家族会等で全員が協力し合いアルバム作成や催し物を披露する等共に行う事で達成感を得ています。ご家族様にも喜んで頂けたと感じています。今後もお客様とご家族様が安心していられる場所「わたしの家」になれるようにしていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体病院が真向いにあり、また地盤も強固で避難訓練にも工夫があり、医療と防災に安全、安心の環境に事業所はあります。今年度は、「5S活動」への取り組みを強化し、委員会を立ち上げました。整理、整頓、清掃、清潔、しつけなど、各チームが活動することで従来は目の届きにくかったところに着目したり、日替わりで各居室を重点的に掃除がおこなわれました。これらは、昨年度の外部評価における家族アンケート結果に真摯に向き合ったもので、毎年新たな改善向上の力に秀でていきます。また、新入職員の夜勤不安を解消するために、原因を究明したり2人で暫くは対応するなどのOJT研修をおこなうといった例などからも、管理者の細やかな日頃の指導が実りつつあることが観えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示している。 新入職員には、入職時に説明を行い。実践状況は会議で確認を行っている。	医療法人としての「理念」「行動指針」を読み合わせが日常化しており、どの職員も暗記するほどの浸透をすすめています。職員会議において「ゆつたりのんびり、できていますか」と管理者からも確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に入会している。町内の方々からホームでの行事にボランティアとして参加されている。福祉展に作品出展を続けている。	高等専門学校、中学校の福祉体験や実習を受け入れています。民生委員の協力のもと、10名以上の学童保育の生徒が七夕の笹を届けてくれ、世代間で楽しく交流しています。その他にも「音楽療法」のボランティアが毎月訪問するなどの活動があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生・中学生・高校生・専門学生の福祉体験や実習を毎年受け入れており、いつでも見学が出来るように環境を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度を目安に開催している。議題になった問題点などの意見を頂きながら、職員間で話し合いサービス向上に活かしている。	自治会長、民生委員、市職員が毎回参加しています。地元で開催される短編映画祭への誘いなど、地域ならではの取り組みが紹介されています。また、ボランティア活動に関する質問がこなわれたり、日中のレクリエーションについて意見を集めたりと運営に役立っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	富士市主催の研修や、感染症・事故報告を行っている。	市行政とは普段から相談しあえているなど、よく連携が取れています。市から認知症サポーター養成講座の開催協力の依頼があったことが運営推進会議の記録からも確認されました。今後は「予防体操」など地域包括支援センターとの連携も予定しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ゼロ宣言をしており、チーム会や申し送りで日常の振り返りを行い拘束しないケアの実践をしている。	身体的な拘束はこなわれていませんが、スピーチロックなど、利用者を制約することがないように安全面に配慮しながら職員間での連携をすすめています。「休憩時間は20分間、職場を離れる」など、職員のメンタルケアに努め、ゆとりある接遇をおこなっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファ・チーム会・申し送りで日常生活の振り返りを行い虐待防止への意識を高めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し伝達講習を行い学び合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を頂き十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿にアンケート記入欄があり、申し送りで反映している。	運営推進会議への参加は少ないものの、年2回以上開催される家族会には多くの利用者家族が参加しています。家族会では事業所のイベントに招待するなど、参加しやすくしています。面会簿にアンケートが記載でき、家族からの意見は自由に提案できるようになっています。	開設後10年が経過し、利用者の心身機能が低下するにつれて、従来できていた参加ができなくなることも予想されます。事前に家族に説明したり意見を集約することを期待いたします。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回運営会議を開催している。その他定期的に面接を行い、意見や提案を聞いている。	今年度から「運営会議」(事業所幹部会)を毎月開催し、職員の意欲が向上できるように企画や評価をおこなっています。個人面談も定期的におこなうことで、職員からの意見も収束していません。最近では運営にノウハウが蓄積されてきたこともあり、例えばイベントの開催など職員の達成感が充実してきています。	「運営会議」が来年度も継続されて、職員が働きやすい自由な環境が持続することを期待いたします。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理を作成し、評価を行いながら各自が向上心が持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を促し、参加する為に勤務表作成時に組み込んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会の交流会や研修に参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人の生活状況を情報収集し、職員に伝達し、安心して頂けるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望を取り入れながら、日々の状況を伝えて意見を頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況について、ご家族と情報の共有を行いながら、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が気持ちよく役割が出来るように、情報の共有を行い関わりを持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便り発行し、担当者より近況報告を行っている。臨時の受診や緊急時はその都度対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時ゆっくり過ごせる環境作りや、コミュニケーションが取りにくくなっている時には、間に入り関わっている。	住民参加型デイサービス「ふれあい・生き生きサロン」への参加を支援しているため、利用者は同年代の地域住民と交流が続けられます。信仰のある利用者には、スウェーデン人の牧師さんがクリスマスにはサンタクロースの衣装で喜ばせてくれることもありました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合同食事会や外気浴の企画を立案し、実行しながら入居者同士が関われる場を作っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見舞いや葬儀に参列する等している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人からの情報収集を職員間で話し合い、個別に考えている。	「発症経過」「生活の様子」などを入所時に確認しています。アセスメントシートは状態の変化に応じて加筆修正していて、特に今年後はすべてのシートを整理し見直しています。全職員が同じレベルの視点で思いや意向が把握できることをめざしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの情報収集を行いファイルにまとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェック。介護記録への詳細な記録。朝の申し送り、夜勤から日勤へ送りを行っている。夜勤者の申し送り記録あり。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	説明時に意見要望を伺いプランに取り入れている。カンファ時に職員間で気になることなど話し合い意見を出し合っている。	介護記録にケアプランの目標が達成されているかどうかを日々記載し、検証しています。「普段の気づき」からも計画作成に反映されるような事もあると捉え、カンファレンスで職員同士が積極的に発言できるような雰囲気づくりをおこなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に記入し、カンファ時やホーム会で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時は他科受診に同行している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	GH交流会参加。 毎月町内のイキイキサロン参加。 買い物。 町内まつり参加。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族・本人より希望にて湖山リハビリテーション病院にかかっている。訪問診療で主治医との話もできている。	母体法人の病院が隣接していますが主治医の変更は任意で選択でき、現在でも2名の利用者が従来からのかかりつけ医にて受診しています。毎月往診があり、薬剤師による服薬指導が受けられるなど、病院との連携は充実しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来訪され、情報の共有を行いながら相談や指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に出向き情報伝達や早期に退院できるように、話し合いを持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでの指針のあり方はご家族に説明している。状態不良時の時には、主治医とご家族との話し合いに参加しながら、支援している。	今まで看取りはおこなっていませんが、重度化した場合には利用者家族や主治医とよく話し合いをおこない、意向に沿うことができるように検討しています。今後は利用者の高齢化に対応できるように、他事業所での看取りの事例などを職員にも伝えていきます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを周知徹底している。新人にも説明し研修参加を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行っている。	年2回避難訓練を実施しています。消防署からは「避難体制」や「消火器の期限」などのアドバイスも得ています。さらに、避難訓練とは別に非常通報の訓練を3日間にわたっておこない、職員全員が通報を体験することで非常時の連絡体制を確立しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時は、周囲に気を配りながら大きな声で誘わない。動かれた時には共に行動し本人のいきたい所へ誘導していく。	プライバシー保護については普段から課題を把握し、職員が話し合いをおこなっています。トイレ誘導などでは耳元でささやいたり、利用者についての打ち合わせを職員間でゼスチャーを使い、周囲に伝わらないようにするなどの工夫がみられました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で思いを聞いていく事や、本人が自分で選べるよう選択肢を行い本人に決めて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いに添えるように支援をしている。記録や申し送りで情報の共有を行いお1人おひとりに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んで頂く。毎日のひげそりを本人につきそいながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物に同行し食材を選んで頂き、食事準備に関わって頂く。(皮むき、味見、調理)	献立表にもとづいて食材を購入し、手作りの料理を提供しています。毎食ごとデジタルカメラで撮影し、メニューとともにファイルにまとめています。利用者の嗜好に合わせてメニューをアレンジしたり、「魚」or「肉」など2拓から選んでもらうこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の把握をしバランスを確保している。食欲がない時には本人が召し上がれるものを召し上がっていただく。事前に収集した本人が食べないものは他の物を召し上がって頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行って頂いている。本人ができない所を職員が確認し清潔を保っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握すると共に、さりげない言葉かけを行う等、日々繰り返しながら支援している。	オムツ利用の利用者が3名いて、夜間はパットを使用する利用者もいます。時間ごとのトイレ誘導に加え、仕草や兆候をとらえて随時トイレに誘導しています。排便については繊維質を普段からよく摂ることでスムーズになるようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量・水分量・排泄を個々に把握しながら、カスピ海ヨーグルトや食物繊維を使用している。TV体操やリハビリ体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の入浴したいタイミングに合わせ入浴して頂いている。本人が入浴したいと思える話しかけもやっている。	毎日湯を張り替えて、希望があれば曜日にかかわらず入浴できます。入浴を拒否する利用者に対しては、当日は早めに声かけするなどして、原則として最低週2回の入浴をおこなっています。湯はかけ流して清潔を保っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態を観察しながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回服薬指導があり、処方箋の確認・変化を確認を行っている。本人の状況に合わせて内服出来る支援の指導もあり。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のその時の状況を踏まえながら、役割や気分転換等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望にそって、買い物・散歩・食事・ドライブに外出している。また、本人が外出したくなるような楽しみを提案し外出支援をしている。	随時、隣接している病院周辺を散歩しています。病院の屋上は景色もよく外気浴に適しています。誕生日や行事など外出の企画をたててドライブに出かけています。個別の買い物やドライブなどの外出では、職員体制などを考慮のうえ外出支援をおこなっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出時に様子を伺いながら支援している。訴え時には買い物同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの訴え時、本人自ら、または職員が電話をしている。手紙の支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や季節の壁紙を職員と共に作成し飾っている。	今年度は温度・湿度のチェック表を作成しました。また、「5S」活動について委員会を新たに設けて、今まで手の届きにくかった箇所も清掃するなど整理整頓を心がけています。昨年からの職員の顔写真つきの紹介を玄関前に掲示したところ、利用者・家族からよい反応が得られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が不安なく生活できるよう工夫している。玄関前やリビング内等に、ソファが置いてあり、気の合った方同士や来訪時等使用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を設置する等の工夫をしている。安全を考えながら配置している。	居室扉のデザインが部屋毎に異なるため、各部屋が分かりやすくなっています。居室内にはエアコン、ベット、クローゼットが備え付けられています。筆筒やTVなど、馴染みのものを持ち込むように奨励しています。夜間居室で過ごす不安を感じる利用者は、和室で休んだり、マットを敷いて共用空間で眠る利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが不安なく生活できるよう日々工夫している。		